日本高専学会

第２７回総会議案書

期　日：2021 年 5 月 22 日（土）

テレビ会議

第 13 期会長あいさつ

赤対　秀明

本会は、第２７回総会を迎えることができました。これはひとえに会員の皆様のご協力とご支援によるものと厚くお礼申し上げます。２期４年間、会長を仰せつかりましたが、本総会をもって退任となります。会長に就任以来、「高専学」のシンカ（進化・深化）と会員の増強を目標にかかげ、理事の皆様と共に取り組んでまいりましたが、前者については、学会誌、年会講演会、連続シンポジウム、セミナー、理事会などを通して、少しずつではありますが、シンカしてきたと自負しています。しかしながら、後者については、定年退職に伴う退会と新規加入者がほぼ同程度であり、大きな変化はありませんでした。４年前の年会のあいさつで、「会員数を倍増したい。各会員が一人誘えば倍増します。」と発言したところ、「２倍といわず、５倍・１０倍と増やして頂きたい」と来賓から激励されたことを思い出します。2021 年度から、年４回の学会誌の出版を２回にし、あとの２回は論文を中心とした WEB 掲載としました。これにより捻出された経費を、研究補助金として高専学をシンカさせるテーマを募集することにしました。ありがたいことに７件の応募があり、うち２件のテーマを採択しました。採択されたグループの中で数名の方が入会され、正のスパイラルが起こり始めています。新会長・新理事会により、まもなく提案される「JACT2030」では、上記のような取り組みも企画されており、本会の発展につながるものと期待しています。本会の益々の発展を祈念して、退任のご挨拶とさせて頂きます。

令和 3 年 5 月 22 日

第 14 期会長あいさつ

山下　哲

第 27 回の総会を迎えるにあたり、会員の皆様には、本会の発展のために日頃からご協力とご支援を賜り感謝申し上げます。今年度から会長を拝命し、大変光栄に存じます。会員の皆様のお役に立てるよう精一杯尽力いたしますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

さて、昨年度は新型コロナウィルス感染症拡大による緊急事態宣言に始まり、２度目の緊急事態宣言解除で終わるというように、新型コロナウィルス感染症対策に追われた１年でした。遠隔授業を余儀なくされ、授業や学生支援の質を低下させないよう様々な工夫が行われました。特に、実験・実習についてはきめ細かい対策が配慮され、最低限の質保証が確保されるよう尽力されておりました。今年度培われた遠隔授業、学生支援、実験・実習などのノウハウを共有し、将来期待されているハイブリッド型（対面と遠隔の併用）を実現するための足掛かりとなるよう、日本高専学会の活動を活性化させていきたいと考えております。

日本高専学会が皆様にとって実り多き場を提供できるよう真摯に取り組みますので、今後とも引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年 5 月 22 日

Ⅰ　２０２０年度事業報告

１．会議

1.1　総会

2020 年 05 月 23 日（土）　於：ネット会議

1.2　理事会

第１回理事会　2020 年 05 月 18 日(土)･23 日(土)　於：ネット会議
第２回理事会　2020 年 09 月 04 日(金)　於：ネット会議
第３回理事会　2020 年 12 月 05 日(土)･06 日(日)　於：ネット会議
第４回理事会　2021 年 02 年 06 日(土)･07 日(日)　於：ネット会議

２．各部会報告

2.1　研究部会　部会長：山下哲

(1)学会誌編集委員会（編集委員長：江原史朗）

2021 年度には発行予定であった 4 冊の学会誌（25 巻 2 号，25 巻 3 号，25 巻 4 号，26 巻 1 号）を予定通り発行した．25 巻 2 号では「高専におけるアントレプレナー教育」と題して特集を組み，高専における起業を意識した活動やクラウドファンディングの取り組みなどを紹介した．25 巻 4 号では「社会実装教育」と題し，東京高専を中心に行われている社会実装教育について，各高専での取り組み事例を紹介した．

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため，2021 年発行の学会誌より，年 4 回の学会誌のうち 2 冊を論文特集号とし WEB 掲載のみ（冊子体での配布を行わない）としている．25 巻 3 号は「第 14 回論文特集号」，26 巻 1 号は WEB 掲載の「第 15 回論文特集号」として高専教職員の教育・学術研究の成果をまとめ，広く世間に公表する役割を果たした．

(2)論文審査委員会（委員長：神田佳一）

2020 年度に受理した投稿論文総数は、第 26 回年会講演会（オンライン）での推薦論文 7 編、一般投稿論文 5 編の計 12 編であった．査読審査を行い，2020 年 12 月末までに査読を通過した論文 3 編を学会誌（第 26 巻 1 号）に掲載した。また、その後掲載可となった論文 6 編を学会誌（第 26 巻 3 号）に掲載予定である．査読の結果掲載不可となった論文 3 編については、学会誌（第 26 巻 2 号）の一般記事として再投稿され掲載された。

なお，投稿論文の査読体制は一件当たり 2 名の査読者を維持しており，延べ 24 名の委員に査読を依頼した．

(3)表彰選考委員会（委員長：坪根弘明）

a）2020 年度「研究奨励賞」の募集および審査等を行った．全国 12 高専から 15 件の申請があり，申請論文の分野別内訳は，機械系 1 件，電気・電子・情報系 6 件，物質・化学・生物系 5 件，建築・土木系 3 件であった．これら 15 件のうち，およそ半分となる 7 件が第一次審査を通過し，第二次審査において最優秀賞 1 件，優秀賞 1 件が選出された．これらの審査結果については，総て会長による了承が得られ，各賞が授賞された．

2020 年度　研究奨励賞

最優秀賞

1）学生氏名:齊藤　瞭汰
　所　　属:福島工業高等専門学校 専攻科 産業技術システム工学専攻

研究題目:単細胞生物 Colpoda 休眠シストの環境ストレス耐性と細胞修復機構に関する研究

優秀賞

1) 学生氏名:辻 湧貴
所　属:旭川工業高等専門学校 専攻科 応用化学専攻
研究題目:高粘度プレポリマーより合成した修復剤内包カプセルとそれらを用いた金属防食用自己修復塗膜の開発

b) 2019 年度「活動奨励賞」の募集を行い，表彰選考委員会で審査を行った．全 5 高専から 6 件の申請があり，厳正な審査の結果，3 件の活動奨励賞が選出された．これらの審査結果については全て会長による了承が得られ，受賞を確定した．なお，昨年度の年会講演会がオンラインに変更となったため，受賞講演等は実施しなかった．

2019 年度　活動奨励賞

【活動奨励賞】

1) 受賞者：呉高専 3D マップ製作チーム
所属校：呉工業高等専門学校
活動名：GIS とレーザー加工機で作る 3D マップによる防災授業の小中学校への展開
2) 受賞者：狩野　元弥
所属校：仙台高等専門学校
活動名：地域理科教育支援活動
3) 受賞者：テクノ・パラメディック
所属校：鶴岡工業高等専門学校
活動名：離島における家電修理ボランティア活動を通した地域貢献

c) 第 26 回年会講演会において，下記のように優秀発表賞 6 件の表彰を行った．

第 26 回年会講演会優秀発表賞

優秀発表賞

1) 受賞者：山田 健太（大阪府大高専専攻科）
題　目：結合インダクタ方式昇圧型 DC-DC コンバータにおける過渡応答特性および周波数特性を改善する制御系の検討
(No. S1-6)
2) 受賞者：吉田 匠太朗（大阪府大高専専攻科）
題　目：Ag-TiO2 複合体の合成と物性評価
(No. S2-2)
3) 受賞者：天神 士優（都城高専専攻科）
題　目：二段時効処理したマルエージング鋼の疲労特性に関する研究
(No. S3-3)
4) 受賞者：伊野　淳也（大阪府大高専専攻科）
題　目：図書館におけるナビゲーションアプリの開発
(No. S4-5)
5) 受賞者：木下 拳汰（明石高専専攻科）

題　目：護床工ブロックの形状・配列による河床材料の流失と河床変動特性に関する研究
(No. S5-3)

6) 受賞者：中石 和孝（近畿大学高専）
題　目：クェーサーの三次元空間分布に関する調査
(No. S6-2)

(4)企画委員会（委員長：武長玄次郎）

a) 研究助成制度に関して

前年度からの懸案であった研究助成制度（助成期間 1 年間、年に 2 件まで助成、1 件あたり最大助成 25 万円を助成、）を創設し、令和 2 年 5 月 23 日に「日本高専学会研究助成に関する規則」を定め、9 月 23 日に一部規則の改定を行った。規則制定に伴い、研究助成のための申請書、報告書の様式が定められ、「研究助成申請書審査規定」も制定された。令和 3 年 1 月から助成に関する募集が行われ、計 8 人（組）の応募があった。

研究助成審査委員会が設置され、赤対秀明委員長をはじとする 5 人の委員が厳正な審査を行った。

１　研究課題「顧客ロイヤルティ指標を応用した授業評価アンケートの高度化に関する研究」(研究代表者　阿南高専　坪井泰二)

２　研究課題「卓上ゲーム型『日本事情』教材の開発」(研究代表者　宇部高専　畑村学)

が採択された。

研究助成制度今後見直しが必要である。

b) シンポジウムについて

2021 年 5 月 22 日(土)の午後に実施されるシンポジウムについて委員会で検討し「高専教育と SDGs」の実施を計画した。

シンポジウム「高専教育と SDGs」

概要

国連において、SDGs は 17 の目標と 169 のターゲットを掲げ、世界から貧困をなくし、持続可能な社会・経済・環境を作るべく 2015 年に採択された（2030 年まで）。日本でも 2020 年 10 月 26 日に菅首相が『2050 年に国内の温室効果ガス排出を実質ゼロにする』と宣言し、政府、地方自治体、企業などが様々な形で SDGs への取り組みを行っており、投資や未来都市の選定などが行われている。教育においても、文部科学省は ESD（持続可能な開発のための教育）の普及を進め「持続可能な社会の創り手の育成」が新学習指導要領や第３期教育振興基本計画に記載されている。今後 SDGs の各教育機関での取り組みが重要となるが、高専教育においては、これまでのところ十分に関心が高いとは言えない。だが SDGs の目標やターゲットには、質の高い教育の保証やイノベーションの達成など高専教育と関わるものが多く、企業が SDGs の影響を受けることが確実な状況のもとで、産業界の強い要望に応え、実践的技術者を養成する高等教育機関として創設された高専への影響も大きくなることが予想される。さらに地域社会への貢献や環境問題の改善、資源の保全など、高専の教育・研究において SDGs を積極的に推進することによって貢献できるであろうものは多い。

本シンポジウムでは、SDGs について改めて確認した上で、SDGs に関する先進的な事例の紹介を行い、今後高専教育において SDGs に対しどのように取り組んでいくかべきについて、参加した高専教員に考察する機会を提供する。

プログラム

14:00～14:05　　主催者挨拶（山下哲新会長）

14:05～14:35　講演 1（SDGs の基礎）「なぜ SDGs が必要？地球の今と私たちに求められていること」松尾沙織 氏（ACT SDGs 管理人／SDGs 研修コーディネート／ライター／ファシリテーター）
14:35～15:05　講演 2（行政機関における SDGs の取組事例）「SDG s 未来都市うべの取り組み」三戸敏彰 氏（宇部市商工水産部 理事）
15:05～15:10　休憩
15:10～15:40　講演 3（大学における SDGs の取組事例）「魚庭（なにわ）の海再生プロジェクト－大阪府阪南市における取り組み－」
黒田桂菜 氏（大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 現代システム科学専攻 海洋環境学研究室 准教授）
15:40～16:10　講演 4（高専における SDGs の取組事例）「SDGs×分野横断的能力育成－専門教育とのスパイラルアップ－」
川畑成之 氏（阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 機械コース 准教授）
16:10～16:15　休憩
16:15～16:55　質疑応答

c)年会開催校視察
会長および企画委員長が、次々回の年会開催校を視察することになっているが、新型コロナウイルス感染症流行のため、令和 4 年度年会開催校の鹿児島高専を視察できてない。視察の有無とメンバーについて、今後検討が必要である。

2.2　運営部会　部会長：鈴木　昌一
(1)財務委員会（委員長：粳間　由幸）
2020 年度会計は，理事会がすべてオンライン開催に変更，学会誌論文特集号の WEB 化，技術者教育研究所の廃止により，繰り越し金額は 1596241 円であった。
2021 年度予算案は，収入については学会誌の別刷りを印刷，販売しなくなったことにより学会誌別刷料・掲載料が減収となるが，前年度繰越金の増収によって全体としては昨年度比 648 千円の増額となる．支出は，学会誌論文特集号の WEB 化によって項目削減となるが公募型研究助成金が新たに経費計上となるので，経常経費としては 140 千円の増額となる．そして，収入から経常経費を差し引いた内部留保が前年度繰越額によって多額となったので，内部留保の一部を特別会計に繰り出すこととした．よって，翌年度繰越金となる予備費は，一昨年度決算額比 28 千円の赤字となる．この赤字は，委員会等経費の節約によって黒字となるように努めるとともに，必要経費ついては予備費にて補填する．
近年，学会会計は論文投稿の減少によって減収傾向にあります．会員の皆様には，積極的な論文投稿によって，学会運営へのご協力をよろしくお願いいたします．

(2)役員選考委員会（委員長：赤対秀明）
役員の任期満了にあたり，選挙管理委員会委員長を大淵真一氏（神戸高専）として，第 14 期役員の選挙を実施した．
投開票の結果，投票総数は 114 票で，当選人は以下のとおりとなった．
会長：山下　哲(木更津)
理事：宇野宏司(神戸市立) 、糎間由幸(米子)、江原史朗(宇部)、神田佳一(明石)、北野健一(大阪府大)、鈴木昌一(鈴鹿)、土井智晴(大阪府大)、南部幸久(有明)、坂東将光(近大)、松本高志(阿南)
監事：大谷文雄(米子) 、権田岳(米子)

(3)年会実行委員会（委員長：赤対秀明）
新型コロナウィルスの感染予防に配慮し、日本高専学会第 26 回年会講演会を 2020 年 9 月 5 日(土)，6 日(日)に理事会主導で初のオンライン開催とした．講演会の参加者は合計 74 名（1 日目 70 名、2 日目 50 名）であった。発表は口頭発表のみとして、発表件数は合計 55 件（一般講演 24 件、学生発表 31 件）であった．
(4)広報委員会（委員長：坂東将光）
日本高専学会第 27 回年会講演会の参加・発表申し込みページ、第 27 回総会開催ページ、第 23 回シンポジウム開催ページを作成し、別段問題なく運用できている。また、メーリングリストの入退会についても管理を行った。学会ウェブサイトのデザインについて、これまでの印象を残しつつ PC の他スマートフォンでも円滑に閲覧できるよう全体的に改修を行った。

2.3　ワーキンググループ
(1) JACT2030 構想ワーキンググループ（委員長：赤対秀明）
2020 年 10 月 29 日付メール審議で本ワーキンググループの設置が承認された。メンバーは、委員長は赤対秀明（神戸）、副委員長は山下哲（木更津）、委員は日高良和（宇部）、北野健一（大阪）の 4 名となった。JACT2030 骨子案を作成し、第 3 回理事会、第 4 回理事会で審議し、以下の骨子が承認された。

JACT2030 の骨子

JACT2030 の目的は，これまで各高専で伝統的に培ってきた，高専独自の教育である「高専学」を，新たな教育学の一分野として，カリキュラムと学生指導・支援の観点から体系づけることにある．
「高専学」のカリキュラムの根本は，本学会が発信してきた「創造教育」である．実践的・創造的技術者を育成するために，本科低学年で創造性の基礎を育み，本科高学年や専攻科で社会実装などの高度な PBL 教育まで，創造性を育むための特色ある教育を体系化していく．
「高専学」の学生指導・支援の根本は，本学会が発信してきた「大人化」教育である．中等教育である高校の生徒指導・支援や高等教育である大学での学生指導・支援とは異なり，高専学生として自主性を重んじ，15 歳から 20 歳までの「大人化」していく 5 年間において，一貫した学生指導・支援体制のもと，徐々に自律していく「大人化プログラム」の実践方法を体系化していく．

３．研究所活動

3.1　ブレイクスルー技術研究所　（所長：大成博文）
下記のプロジェクトなどに取り組んだ．

1. マイクロバブル研究会
2015 年 7 月に発足させ，2020 年 4 月までで合計で 55 回の研究会を開催したが，コロナパンデミックのせいで，同年 5 月以降は休会している．しかし，各部会の活動は継続しているので，その概要を示す．
①七島イ部会
引き続き，七島イの栽培をハウス内で継続して行っている．この間，その栽培において地元の課題になっている二期作が可能かどうかに関して，その決め手になる方法を見出した．それは，ハウス内で成長促進を遂げさせることで花を咲かせないことであり，ハウス

内でもそれができないのであれば花が,咲いて一期作に留まることが判明したことである.引き続き，二期作以上の栽培法に関する研究を継続する必要がある.

②農業部会

地元農家と協力しての米作研究を5年間継続し，増収増益，病気や虫に強い米作法を開発した.

また，地元のネギ農家と協力して，ネギ研究会（8名）を発足させ，無農薬無肥料による安全でおいしいネギづくりを熱心に研究している.

また，そのネギを地元の病院，歯科医，体操教室の先生などに紹介し，公表を得た．さらに,そのネギを進化させた栽培法を確立し,某テレビ局の取材を受けることが決まった.

③ペット洗浄部会

ペットの口腔ケア問題が重大になってきていることから，その問題解決のためのサンプル水を作成し，地元の高名なペットのトリマーと協力して共同実験を行っている.

これらの研究会活動は，ブレイクスルー技術研究所が支援し，協力する活動として発展している.

２.医療福祉プロジェクト

新たな補助金（大分県）２つが採択され，中津市のK整形外科病院および同病院の介護老人保健施設，さらにはW歯科医の三者による共同研究を実施した．また，各種の口腔ケアおよび排泄装置を開発した．その共同の実験成果を学会や「老健全国大会」において発表した.

3. 植物工場支援プロジェクト

沖縄県恩納村における植物工場の支援を行った．また，茨城県かすみがうら市においても中型の植物工場が設置され，その支援を行った.

4. 歯科プロジェクト

大分県中津市の歯科医との共同研究を開始し，口内細菌の不活化および歯科治療機器の開発に取り組んだ．上記のように新たな補助金を得て（2つで900万円），口腔内洗浄，歯周菌の除去等に関する研究に取り組んだ.

5.北海道ウニ・昆布プロジェクト

昆布の激減，生育不良，ウニの減少傾向が続いていることから，それらを再生させるためのプロジェクトを北海道のウニ業者と協力して発足させた．当面，その再生のための試験装置の導入が決まり，そのための試験方法を協議している.

6.コロナプロジェクト

大学教員2名，高専教員1名，民間企業2名（代表者は大成博文（㈱ナノプラネット・大成研究所））によるコロナプロジェクトを発足させた．当面，コロナ情報に関する情報交流を主として行ってきた.

４．研究会

申請なし

５．会員状況等（2021年3月31日現在）

5.1　会員数と分布

会員数は，この1年間で3名減（入会21名，退会24名）の257名となった.

また，種別ごとの会員増減数は以下のとおりである.

正会員　　：入会14名，退会15名，計1名減
学生会員　：入会7名，退会8名，計1名減
シニア会員：入会0名，退会1名，計1名減

賛助会員　：入会 0 社，退会 1 社，計 1 社減

｛正会員｝230 名

北海道　7　函館（4），苫小牧（1），釧路（2）
東　北　15　八戸（3），一関（1），仙台（2），秋田（1），鶴岡（7），福島（1）
関　東　24　茨城（1），小山（3），木更津（17），東京（1），東京都立産業技術（1），群馬（3）
北信越　9　富山（3），石川（１），福井（2），長岡（2），長野（1）
東　海　10　沼津（3），鈴鹿（7）
近　畿　65　大阪府立大（19），神戸市立（12），舞鶴（4），明石（3），奈良（2），近畿大（24）
中　国　40　米子（5），松江（5），津山（5），広島商船（3），呉（1），徳山（2），宇部（16），大島商船（3）
四　国　13　香川（4），新居浜（4），弓削商船（1），高知（3），阿南（1）
九　州　23　有明（11），北九州(0)，久留米（1），佐世保(1)，熊本（1），都城（2），鹿児島（7）
高専外　23　高専卒業生，高専教職員ＯＢ，大学教員，他

｛学生会員｝　11 名

鳥羽商船（1），大阪府立大（2），神戸市立（1），福島（0），明石(2)，高専外（2）

｛シニア会員｝18 名

｛賛助会員｝7 社

片岡計測器サービス株式会社（山口県山口市），新日本製鐵株式会社（千葉県富津市），
日本フェンオール株式会社（東京都八王子市），株式会社学術図書出版社（東京都），
理想科学工業株式会社宇部工場（山口県宇部市），
国立研究開発法人 科学技術振興機構（東京都），メディア総研株式会社（福岡県）

会員総計　２５７名　　賛助会員　７社

5.2　学会誌の購読等

(1)学会誌購読先

・広告掲載企業 2 社：
株式会社学術図書出版社（東京都），メディア総研株式会社（福岡県），
京都工芸繊維大学（京都府）

・図書館等の購読 16 校 1 社：
函館工業高等専門学校，苫小牧工業高等専門学校，釧路工業高等専門学校，
秋田工業高等専門学校，仙台高等専門学校（広瀬キャンパス），
舞鶴工業高等専門学校，津山工業高等専門学校，大島商船高等専門学校，
有明工業高等専門学校，都城工業高等専門学校，神戸市立工業高等専門学校，
大阪府立大学工業高等専門学校，豊橋技術科学大学，宇部工業高等専門学校，
富山高等専門学校（射水キャンパス），大分工業高等専門学校，
東京官書普及株式会社

(2)学会誌無料配布先

国立高専機構，文部科学省，大学改革支援・学位授与機構，日本工学教育協会，
読売新聞東京本社
に配布

Ⅱ　２０２０年度決算

期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

収　入

項　　目	予算額	決算額	備　　考
前年度から繰越	541,915	541,915	
会費（正会員）	1,603,000	1,539,500	会員 2 人 2021 年度分支払い、会員 14 人会費不払い
会費（シニア会員）	32,000	28,000	会員 1 人 2021 年度分支払い、会員 2 人会費不払い
会費（賛助会員）	80,000	70,000	
広告収入	60,000	140,000	
学会誌購読料	126,000	171,000	各高専図書館 ¥105,000、バックナンバー購読 ¥66,000
学会誌別刷料・掲載料	200,000	326,300	
雑収入・利息	600,000	703,948	JST著作権抄録使用料 ¥2,200 年会実行委員会からの返金 ¥701,735 預金利息 ¥9
当年度小計	2,701,000	2,978,748	
合　　計	3,242,915	3,520,663	

支　出

項　　目	予算額	決算額	備　　考
学会誌発行費	600,000	684,244	
論文特集号経費	300,000	402,798	
年会運営費	500,000	500,000	
事務局経費	100,000	97,518	事務局長 ¥4,800 財務委員会 ¥49,081 ゆうちょ振替口座振込手数料 ¥22,517 三菱UFJ銀行 BizSTATION 利用料 ¥21,120
理事会等会議費	400,000	0	
学会誌編集委員会経費	300,000	61,070	
論文審査委員会経費	100,000	64,000	
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	73,928	
予備費	802,915	6,720	企画委員会経費
当年度小計	3,242,915	1,924,422	
翌年度へ繰越		1,596,241	
合　　計	3,242,915	3,520663	

特別会計

項　　目	予算額	決算額	備　　考
前年度繰越金	1,702,170	1,702,170	
差引残高	1,702,170	1,702,170	

Ⅲ　２０２０年度会計監査報告

監 査 報 告 書

2020 年度収支決算の、相違ないことを認めます。

2021 年 5 月 10 日

監査

権田　岳　　権田岳

板谷　年也　　板谷年也

Ⅵ　２０２１年度事業計画（案）

日本高専学会は，1995 年の設立以来，創造教育や技術者教育など高専が行う様々な教育を中心にして総合的な研究を行っている．昨年度は，新型コロナウイルス感染症により活動が制限される中，オンラインにより総会や年会講演会を実施することができた．オンラインによる活動は移動時間や交通費のなどの利点があることから，学会活動の新しい形として今後も検討を行っていく．2021 年度は 9 月に高専のダイバーシティをテーマに富山高専本郷キャンパスにより年会講演会を実施する予定である．感染症対策を十分に行って，実りある会としたい．

１．会務

(1)総会　　1 回（5 月 18 日）
(2)理事会　　4 回（5 月，8 月，11 月，2 月を予定）

２．行事

(1)年会・講演会　　1 回（9 月 3 日・4 日）
(2)連続シンポジウム　　1 回（5 月を予定）

３．学会誌の出版

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため，2021 年発行の学会誌より，年 4 回の学会誌のうち 2 冊を論文特集号とし WEB 掲載のみ（冊子体での配布を行わない）としている．2021 年度も年 4 回の学会誌発行を維持していく．

冊子体により発行する学会誌では，教育改善や国際展開等，現状から将来に向けた展望を探る多様な特集企画や，学生の取り組み紹介を行っていく予定である．

今後も「魅力あふれる日本高専学会誌」とするため学会員には引き続き，情報提供とご支援をお願いする次第である．

2021 年度の学会誌の発行は，
26 巻 2 号　2021 年 4 月　（発行済）
26 巻 3 号　2021 年 7 月　（第 16 回論文特集号，WEB 掲載）
26 巻 4 号　2021 年 10 月
27 巻 1 号　2022 年 1 月　（第 17 回論文特集号，WEB 掲載）
とする．

４．技術者教育・研究活動への貢献

(1)ブレイクスルー技術研究所（所長：大成博文）
引き続き，以下の課題に取り組む．
1）長野県阿智村プロジェクト
茨城県かすみがうら市において新たに設置された中規模植物工場の事例を長野県に阿智村の元村長に紹介し，阿智村への導入問題を検討していただく．
2)大分県国東プロジェクトを実行する．
マイクロバブル研究会を軸にして，地域再生の課題を検討する．

①七島イ部会

・引き続き，二期作栽培に関する研究を行う．

②農業部会

・沖縄での野菜工場の成功を踏まえ，その増設による発展に寄与する．また，その野菜栽培における高温障害の克服法を検討する．新たな野菜洗浄装置を開発する．

・台湾における高温障害克服型の小規模野菜工場の試験プラントの稼働を支援する．

・地元農家と協力してネギ研究会におけるネギ栽培に関する支援を行う．

③ペット洗浄部会

地元のトリマーと協力してペットの口腔ケアに関する研究を行う．れを発展させる．

3) 北海道ウニ・昆布プロジェクト

新たに発足させたウニ加工過程の改善，ウニ専用の昆布養殖法について，北海道のウニ業者との共同研究を進める．

4) 台湾プロジェクト

台湾の企業と協力して水質浄化装置の開発を行う．

本研究会活動を発展させることによって，ブレイクスルー技術研究所が支援し，協力活動をより一層発展させる．

5) 大分県中津市のK整形外科病院および同病院介護老人保健施設との共同研究を発展させる．とくに，骨髄炎に関するより具体的な共同研究を発展させる．

6) 大分県中津市の歯科医と協力して，口内細菌の不活化および歯科機器の新たな開発を行なう．

なお，6）と7）においては2つの補助金が採択されているので，それらを踏まえた開発を行う．

7) コロナプロジェクト

大学教員2名，高専教員1名，民間企業2名（代表者は大成博文（㈱ナノプラネット・大成研究所））によるコロナプロジェクトを継続して，コロナ情報に関する情報交流に努める．また，コロナ対応の機器開発を検討する．

５．研究会の申請

・一般科目の効果的AL教育法開発研究会

代　　表：山下哲（木更津）

研究会会員：小澤健志（木更津、事務担当）加田謙一郎（木更津）、
吉本弥生（石川）、畑村学（宇部）、原口治（福井）、
武長玄次郎（木更津）、小泉卓也（宇部）、稗田吉成（大阪）、
丹羽隆裕（八戸）、北野健一（大阪）

研究会協力員：野口欣照（有明）

６．その他

(1) 高専に所属する学生を対象とした表彰を行う．

1) 日本高専学会研究奨励賞（対象：専攻科生　10月頃募集予定）

2) 日本高専学会活動奨励賞（対象：学会誌に報告がなされた高専生　4月頃募集予定）

(2) 会員増加活動

(3) ホームページやメールマガジンを用いた学会活動の発信

Ｖ　２０２１年度予算（案）

期間：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

1. 一般会計

収　入

項　　目	予算額	摘　　要
前年度繰越金	1,596,241	
会費（正会員）	1,610,000	230 名×7,000 円
会費（シニア会員）	36,000	9 名×4,000 円
会費（賛助会員）	70,000	7 団体×10,000 円
広告収入	110,000	
学会誌購読料	119,000	17 団体×7,000 円
学会誌掲載料	150,000	
雑収入・利息	200,000	年会講演会実行委員会からの返金
合　　計	3,891,241	

支　出

項　　目	予算額	摘　　要
学会誌発行費	600,000	学会誌 2 号分
年会運営費	500,000	
事務局経費	100,000	
理事会等会議費	400,000	
学会誌編集委員会経費	300,000	
論文審査委員会経費	100,000	
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	
公募型研究助成金	500,000	2 件×250,000 円
特別会計への繰出	797,830	
予備費	513,411	
合　　計	3,891,241	

2. 特別会計

項　　目		予算額	摘　　要
収入	前年度繰越金	1,702,170	
	一般会計からの繰入	797,830	
	合　　計	2,500,000	
支出	翌年度繰越金	2,500,000	

2019，2020 年度　役員一覧　（任期：2021 年第 26 回総会まで）

【理事会】

会　　長　赤対秀明（神戸）
副 会 長　山下哲（木更津：研究担当）
　　鈴木昌一（鈴鹿：運営担当）
事務局長　金田忠裕（大阪）
理　　事　大槻香子（釧路：財務、広報），江原史朗（宇部：学会誌編集），
　　武長玄次郎（木更津：企画），坂東将光（近大：広報），
　　坪根弘明（有明：表彰選考），神田佳一（明石：論文審査）
　　粳間由幸（米子：財務）

【監　事】

板谷　年也（鈴鹿），権田　岳（米子）

【顧　問】

梅津清二（元大分），萩原保一（元大阪府立），深川勝之（元宇部），大成博文（元徳山），吉田喜一（元東京都立），久松俊一（元木更津），井上哲雄（元鈴鹿），氷室昭三（元有明）

2019，2020 年度　部会・研究所等担当者一覧

１．研究部会（部会長：北野健一副会長）

(1)学会誌編集委員会　○学会誌の出版に関する業務全般を担当する．
　編集委員長：江原史朗(宇部)
　委　　員：畑村　学(宇部)，坂東将光（近大），粳間由幸（米子），宇野宏司（神戸）

(2)論文審査委員会　○投稿論文の審査に関する業務全般を担当する．
　委 員 長：神田佳一(明石)
　副委員長：山下哲(木更津)
　事務局長：岡本昌幸(宇部)
　委　　員：井上千鶴子(大阪)，柳原聖(有明)，大淵真一(神戸)，明石剛二(有明)，
　　田中康徳(有明)，坪根弘明(有明)，落合積(宇部)

(3)表彰選考委員会　○日本高専学会研究奨励賞と活動奨励賞に関する業務全般を担当する．
　委員長：坪根弘明（有明）
　委　員：山下　哲(木更津)，鈴木昌一(鈴鹿)，坂東将光(近大)，
　　堀田孝之(有明)，大河平紀司（有明）

(4) 企画委員会　○定例のシンポジウムの企画と次回年会の開催計画を立てるとともに，
　　必要あれば新規事業について企画する．
　委員長：武長玄次郎(木更津)
　委員：赤対秀明(神戸)、金田忠裕(大阪)、坪根弘明(有明)、日高良和(宇部)、
　　北野健一(大阪)

２．運営部会（部会長：鈴木昌一副会長）

(1)財務委員会　○財務方針と中期計画の作成を担当する．会員名簿管理を含む．

委員長：粳間由幸(米子)
副委員長：大槻香子(釧路)
委　員：金田忠裕(大阪)，鈴木昌一(鈴鹿)

(2) 役員選考委員会　○役員選出年度の役員選考実施全般の業務を担当する.
会長，副会長，事務局長
なお，選挙管理委員（定員３名，委員長は委員からの互選）は会長の指名による.

(3)年会実行委員会 ○当該年度の年会実施全般の業務を担当する.
委 員 長：赤対秀明(会長)
事務局担当：鈴木昌一(副会長)

(4)広報委員会　○ホームページとメーリングリストの管理運営，広報の企画実施を担当する.
委員長：坂東将光（近大）
委　員：山本孝子(徳山)，堀田孝之(有明)，鈴木昌一(鈴鹿)

３．研究所等
(1)ブレイクスルー技術研究所
所　　長：大成博文（ナノプラネット研究所）
研 究 員：吉岩哲也(元大分高専，大分)、松村鎌三（不二マイクロバブル㈱，広島）
研究協力員：高見徹(西日本工大、福岡)、大成由音(㈱ナノプラネット研究所、代表取締役、国東)・会計担当、宮田直也(㈱無限企画、代表取締役、福山)、熊谷久栄(美容院「９Ａ」代表、仙台)、橋本昭夫(日本サルヴェージ株式会社、東京)、山本宏（(株)あぴろーど　代表取締役，京都）

2021，2022 年度　役員一覧　（任期：2023 年第 28 回総会まで）

【理事会】

会　　長　山下哲（木更津）
副 会 長　北野健一（大阪）
　　鈴木昌一（鈴鹿）
事務局長　江原史朗（宇部）
理　　事　宇野宏司（神戸），粳間由幸（米子）
　　神田佳一（明石），土井智晴（大阪）
　　南部幸久（有明），坂東将光（近大）
　　松本高志（阿南）

【監　事】

大谷　文雄（米子），権田　岳（米子）

【顧　問】

梅津清二（元大分），萩原保一（元大阪府立），深川勝之（元宇部），大成博文（元徳山），吉田喜一（元東京都立），久松俊一（元木更津），井上哲雄（元鈴鹿），氷室昭三（元有明），赤対秀明（元神戸）、山本孝子（元徳山）

2021，2022 年度　部会・研究所等担当者一覧

１．研究部会（部会長：北野健一副会長）

(1)学会誌編集委員会　○学会誌の出版に関する業務全般を担当する．
編集委員長：宇野宏司（神戸）
委　　員：大塩愛子（神戸），江原史朗(宇部)，坂東将光（近大），粳間由幸（米子）

(2)論文審査委員会　○投稿論文の審査に関する業務全般を担当する．
委 員 長：神田佳一(明石)
副委員長：山下哲(木更津)
事務局長：岡本昌幸(宇部)
委　　員：井上千鶴子(大阪)，柳原聖(有明)，大淵真一(神戸)，明石剛二(有明)，
田中康徳(有明)，坪根弘明(有明)，落合積(宇部)

(3)表彰選考委員会　○日本高専学会研究奨励賞と活動奨励賞に関する業務全般を担当する．
委員長：南部幸久（有明）
委　員：鈴木昌一(鈴鹿)，坂東将光(近大)，坪根弘明（有明），大河平紀司（有明），
石橋大作(有明)

(4) 企画委員会　○定例のシンポジウムの企画と次回年会の開催計画を立てるとともに，
必要あれば新規事業について企画する．
委員長：松本高志(阿南)
委員：山下哲（木更津)、日高良和(宇部)、北野健一(大阪)、武長玄次郎（木更津）

２．運営部会（部会長：鈴木昌一副会長）

(1)財務委員会　○財務方針と中期計画の作成を担当する．会員名簿管理を含む．
委員長：粳間由幸(米子)
副委員長：土井智晴(大阪府大高専)
委　員：大槻香子(釧路)，鈴木昌一(鈴鹿)

(2) 役員選考委員会　○役員選出年度の役員選考実施全般の業務を担当する．
会長，副会長，事務局長
なお，選挙管理委員（定員３名，委員長は委員からの互選）は会長の指名による．

(3)年会実行委員会 ○当該年度の年会実施全般の業務を担当する．
委 員 長：山下哲(会長)
事務局担当：鈴木昌一(副会長)

(4)広報委員会　○ホームページとメーリングリストの管理運営，広報の企画実施を担当する．
委員長：坂東将光（近大）

３．研究所等
(1)ブレイクスルー技術研究所
所　　長：大成博文（ナノプラネット研究所）
研 究 員：吉岩哲也(元大分高専，大分)、松村鎌三（不二マイクロバブル㈱，広島）
研究協力員：高見徹(西日本工大、福岡)、大成由音(㈱ナノプラネット研究所、代表取締役、国東)・会計担当、宮田直也(㈱無限企画、代表取締役、福山)、熊谷久栄(美容院「９Ａ」代表、仙台)、橋本昭夫(日本サルヴェージ株式会社、東京)、山本宏（(株)あぴろーど　代表取締役，京都）